

ミスマッチの抑制、建設コンサルの役割発信

道路や河川などの社会資本整備において、調査や計画策定、設計といった上流の分野を担う建設コンサルタント。建設コンサルタント協会（建コン協）九州支部（種山泰治支部長）では担い手確保に向け、建設コンサルが果たす社会的役割や魅力を学生に伝える機会を増やしている。同時に若年技術者の定着率向上への取り組みも強化している。

近年は災害が頻発化する社会情勢もあり、「防災」や「まちづくり」をキーワードに建設コンサルに興味を持つ大学生も増えたが、漠然と都市計画分野を志望する学生も多いという。

同支部の眞間修一総務・企画部会長は「事業量が多く重要な社会資本である道路や河川がどのように防災と関わっていくのかを認識しきれていない学生が多い」と指摘。企業と学生のミスマッチ防止や、建設コンサルに関する理解促進のため、1週間程度のインターンシップを積極的に行う会員企業も増えている。

同支部は入職希望者の拡大に向け、大学や高等専門学校に学生に加え、近年は就職を意識する前の中学、高校を対象とした発信も強化。2024年度には海星高校（長崎市）の特別授業「SDGs探究活動」に初めて協力。5コマの講義

で建設コンサルの社会的役割を伝える場を設けた。

入職者の拡大と並行し、業界内での若年者の定着率向上への対応も大きな課題となっている。売上高100億円以上の会員企業における24年度の離職者のうち、約9割は20～30代だった。

同支部では入職10年以内の若手が参加するプレゼンテーション大会を毎年開催し、若手がそれぞれに持つ知識を共有しながら、研さんを積める場を提供。会社の垣根を超えた交流も深めてもらい、若手技術者のモチベーションアップを後押ししている。